第２課　ネヘミヤ

【暗唱聖句】

「これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた。わたしはこう祈った。「おお、天にいます神、主よ、偉大にして畏るべき神よ、主を愛し、主の戒めを守る者に対しては、契約を守り、慈しみを注いでくださる神よ」ネヘミヤ記1章 5節

【日曜日・悪い知らせを受けるネヘミヤ】

「捕囚の生き残りで、この州に残っている人々は、大きな不幸の中にあって、恥辱を受けています。エルサレムの城壁は打ち破られ、城門は焼け落ちたままです。」 これを聞いて、わたしは座り込んで泣き、幾日も嘆き、食を断ち、天にいます神に祈りをささげた」ネヘミヤ1：3，4

バビロン捕囚から帰還した人々によってエルサレムの神殿再建はスタートしましたが、捕囚後エルサレムに住みついていたサマリア人たちからの執拗な反対にあい、アルタクセルクセス王の命により工事は中断させられていました。このような状況は現在とそっくりです。王の献酌官であったネヘミヤは、エルサレムから戻った兄弟のハナニから、エルサレムの悲惨な状況を詳しく聞いて、非常に心を痛め、座り込んで泣きます。このような心の痛みと悲しみの中で、ネヘミヤがとったのはまず断食をし、天の神様に祈ることでした。祈る以外にすべがなかったと言った方が正解かもしれません。わたしたちも試練の只中で、人間的な解決策がなく、ただ神様に祈るしかない状況に追い込まれることがあります。これは正しいことであり、神様のくすしきご計画の中にあることを信じましょう。

【月曜日・ネヘミヤの祈り】

ネヘミヤの祈りは一つの美しい流れを持っています。

１．「おお、天にいます神、主よ、偉大にして畏るべき神よ、主を愛し、主の戒めを守る者に対しては、契約を守り、慈しみを注いでくださる神よ」ネヘミヤ記1章 5節

２．「耳を傾け、目を開き、あなたの僕の祈りをお聞きください」ネヘミヤ記1章 6節

３．「イスラエルの人々の罪を告白します」ネヘミヤ記1章 6節

４．「あなたの約束を思い起こしてください。」ネヘミヤ記1章 8節

＊「もしもわたしに立ち帰り、わたしの戒めを守り、それを行うならば、天の果てまで追いやられている者があろうとも、わたしは彼らを集め、わたしの名を住まわせるために選んだ場所に連れて来る」ネヘミヤ1：９

３．「あなたが大いなる力と強い御手をもって贖われた者です」ネヘミヤ記1章 10節

２．「おお、わが主よ、あなたの僕の祈りとあなたの僕たちの祈りに、どうか耳を傾けてください」1：11

１・「どうか今日、わたしの願いをかなえ、この人の憐れみを受けることができるようにしてください。」1：11

神への賛美→祈りを聞いてくれるように願う→罪の告白→願いの中心（約束を思い起こしてください）→神様が贖い主であるとの告白（祈りを聞いてくださる方だということ）→もう一度祈りを聞いてくれるように願う→神様の約束を今日くださいとの強い主張、信仰の確信

【火曜日・率直に話すネヘミヤ】

ネヘミヤは王の献酌官でした。ペルシア人はこの献酌官を尊敬しており、また王のそばにいつもいることができる立場にありました。ハナニからエルサレムの状況を聞かされて以来、ネヘミヤは暗く沈んだ気持ちでいました。王にぶどう酒を差し上げた際に、いつもと様子が違うことに王は気づき、「暗い表情をしているが、どうかしたのか。病気ではあるまい。何か心に悩みがあるにちがいない」（ネヘミヤ2：2）と声をかけます。そこで、ネヘミヤは、「王がとこしえに生き長らえられますように。わたしがどうして暗い表情をせずにおれましょう。先祖の墓のある町が荒廃し、城門は火で焼かれたままなのです」（ネヘミヤ2：3）と正直に話します。すると王は、「何を望んでいるのか」（ネヘミヤ2：4）と言葉をかけてくれました。ネヘミヤはすぐに望みを口にするのではなく、その前に天にいます神に祈ってから、正直に「もしも僕がお心に適い、王にお差し支えがなければ、わたしをユダに、先祖の墓のある町にお遣わしください。町を再建したいのでございます」（ネヘミヤ2：5）と願い出ます。王も王妃も、「旅にはどれほどの時を要するのか。いつ帰れるのか」（ネヘミヤ2：6）と、ネヘミヤはいかに王から必要とされ信頼されている人物であることがわかりますが、最終的には王の好意を得ることができ、願いがかないます。聖書は「神の御手がわたしを守ってくださったので、王はわたしの願いをかなえてくれた」（ネヘミヤ2：8）と、これは偶然ではなく、すべてが神様の守りと導きであることを明らかにしています。

【水曜日・派遣されるネヘミヤ】

「こうして、わたしはユーフラテス西方の長官のもとに到着する度に、王の書状を差し出すことができた。王はまた将校と騎兵をわたしと共に派遣してくれた。ホロニ人サンバラトとアンモン人の僕トビヤは、イスラエルの人々のためになることをしようとする人が遣わされて来たと聞いて、非常に機嫌を損ねた」ネヘミヤ2：9，10

王はユーフラテス西方の長官に宛てた書状をネヘミヤに持たせて、スムーズに事が運ぶようにお膳立てをしてくれました。さらに、将校と騎兵をも随行させてくれます。このことは、ネヘミヤのエルサレム再建計画が簡単なことではない、反対者が大勢いることを物語っています。実際、エルサレムの北側にいたホロニ人の長官サンバラトと東側にいたアンモン人の長官トビヤは、ネヘミヤ一行がやってきたことに対して、気分を害します。前途多難、神様のご計画を成し遂げていくということは、神様の力がなければできないということを私たちは知らなければなりません。

【木曜日・任務に備えるネヘミヤ】

「わたしはエルサレムに着き三日間過ごしてから、夜わずか数名の者と共に起きて出かけた。だが、エルサレムで何をすべきかについて、神がわたしの心に示されたことは、だれにも知らせなかった」ネヘミヤ2：11，12

3日という時間は、行動を起こすのではなく、静まって祈り熟考するために神様から与えられた時間です。私たちも何か大きなことをする場合には、3日間何もしないで祈り、考える時を持つと良いでしょう。ネヘミヤは3日後に僅かな者たちと偵察に行きます。しかし、誰にも神様が示されたことを知らせませんでした。ネヘミヤの慎重な性格が表れています。神様のご計画を分かち合って励ますことは間違ってはいませんが、それはまだなのです。事を起こす前に情報が漏れてしまっては元も子もありません。すべての偵察が終わったのち、ネヘミヤは「エルサレムの城壁を建て直そうではないか」と命じると共に、神様の御手の守りと、王も力添えをしてくれていることを告げると、彼らは「早速、建築に取りかかろう」と奮い立ちます。この一連の流れは、神様の働きに人々をどのように参加させたら良いのかを学ぶ良いモデルです。

サンバラトとトビヤは彼らの計画を聞きつけ、そのようなことは不可能だと嘲笑しますが、ネヘミヤはこう答えるのでした。

「天にいます神御自ら、わたしたちにこの工事を成功させてくださる。その僕であるわたしたちは立ち上がって町を再建する。あなたたちには、エルサレムの中に領分もなければ、それに対する権利も記録もない」ネヘミヤ2：20

神様の働きなのだから、このエルサレム再建工事は必ず成功する。またエルサレムはイスラエルのものであり、彼らには何の権利もないと主張します。私たちも敵であるサタンに同じように宣言していくのです。